

会社体験記

“働くことで学ぶ”
学院生のリアルをお届けします

あたふたしてはいられない

今回お話を伺うのは、株式会社リボーン 門前にこここども園でOJT（On the Job Training）有償インターンを行う高校2年生の竹森愛桜さん。職場で指導いただいている吉田園長と一緒に、「働くことで学ぶ」感想や思いなどをインタビューしました。

現在、どんなお仕事をしていますか？

竹森「担任の先生の補助として、子ども達と一緒に遊んだり、寝かしつけたり、トイレまで引率したりしています。また、給食の準備や部屋の掃除、配布物の提示など、運営部分も行っています。個別に対応が必要な子を任せてもらえる時もあります。すごく泣いてしまったり、中々泣き止まない子とか。部屋で落ち着くのが難しそうな時は、担任の先生と相談して、園内を散歩したり、園内の水槽でおさかなと一緒に眺めたりすることもあります。」

実際に仕事をしてみてどうでしたか？

竹森「子ども達と遊ぶだけの仕事だと思っていました。実際はもっとや



株式会社リボーン 門前にこここども園

365日開園で頼れる安心と、自ら考え行動する「生活力」を育む、認定こども園

在宅介護の分野で上越地域を支えてきた利用者尊重の心のもと、子育て支援でも「365日開園」や夜19時までの保育体制で保護者を力強く支えています。園が目指すのは、子ども達が自ら考え行動し、達成感を得られる保育です。家庭や地域と一丸となり、共に育つ「共育」を実践しています。

ることが多く、安全や食事のアレルギーなどに気を付けながら、あそび道具の消毒など……こんなにやるんだ、と思いました。また、毎日なにかしら起こっています。例えば、子どもなのでちょっとしたことで嘔吐してしまったりもあります。そういう時は、先生たちで連携をとって、子ども達の部屋の移動をしたり、消毒や着替え、体調の確認をしたりなど、バツと動きます。あたふたしてはいけません。必死に先生についています。」

仕事の中で、成長を実感した時や、できるようになったと思ったことは？



竹森「OJTを始めたころは、子どもにやっちゃいけないことを教えるのが難しかったです。例えば、おもちゃで他の子を叩いてしまった時とか。今は、こうすればいいのかも、ということも分かっています。叩いた子、叩かれた子の両方から話を聞くようにしています。理由がなくて叩かれるようなことはそんなになくて。話を聞いてみると、叩かれた子が、実はおもちゃを無理やり持った

行っちゃったというようなこともある。その時には、叩かれた子にも、そういうのはいけないと教えるようにしています。」

吉田「現役の保育士でも、忙しいと、その瞬間だけを見がちです。でも、いま竹森さんが言ってくれたように、前後のつながりがとても大切で。実務の経験から、重要な考え方を学んでくれていて、すごくうれしいです。」

吉田園長にお伺いします。高校生をOJTとして受け入れている理由や思いを教えてください。

吉田「とにかく保育の仕事が楽しいと思ってくれる人、興味をもってくれる人を一人でも増やしたいと考えています。中学校の職場体験も、同様に受け入れています。このこども園で楽しんで、学んで、そして戻ってきてほしいですね。」

吉田園長からみて、竹森さんはどのように成長していますか？

吉田「他の先生たちとのコミュニケーションがうまくとれるようになってきたことが、一番の成長だと思います。竹森さんの手が空いている時とか、何か手伝えることはありますか？」のように聞いてくれるので、すごく頼みやすい。そういったこともあってか、すごく明るくなりましたね。」

何かキッカケがあったのでしょうか？

竹森「職場の巡回で松本学院長が来た時に、そう指導がありました。それでやってみた……という感じではあります。」

吉田「ここ（こども園）では、当人の人柄を子ども達が教えてくれます。その点、竹森さんは子供たちからもよく好かれていてのが分かります。立派な保育士になってくれると思います。このまま経験を積み、これから大学などでもよく学んで、自分の軸がある保育士さんになってくれたら嬉しいです。」

竹森さんにお伺いします。これから、どんな風に成長していきたいですか？

竹森「ちゃんと、一人一人に寄り添える保育士になれたらと思います。」

吉田「竹森さんなら、きっとなれると思いますよ！」

仕事の内容

担任の先生の補助として、クラス運営全般に携わります。園児に対して率先して関わり、一緒に生活をして園児の成長をサポートすることが役割です。発達過程の理解を深めながら園児と対話することで、保育士資格を取得する際に学ぶ内容に実践で触れることができます。元気な子供たちに合わせて走ったり遊んだりすることはとても体力を使いますが、「それが楽しい」と笑いながら子供たちの成長に寄り添います。



とある一週間

日	土	金	木	水	火	月
休み	休み	OJT	登校日	通信制課程の教科学習	OJT	OJT

PBL活動紹介

カフェ開店に向けて新メニューの試作が始まりました

ライトシップ高等学院の学びの柱の1つ「地域おこしPBL」(Project-Based Learning)にて、佐渡汽船ターミナル1Fの旧売店を改装したカフェの開店に向けた準備が進んでいます。今回は、カフェ／イベントチームの活動を取り上げました。5月から、上越校近くの港町会館をお借りして、新作メニューの開発に取り組んでいます。



看板メニューはキューバサンド

カフェのコンセプトの1つ「世界につながる港のカフェ」から生まれた、キューバサンドの試作を行っています。キューバサンドとは、特製の細長いバゲットのようなパンにハムやチーズなど様々な具材を挟み、プレスしながら焼き上げるホットサンドのこと。アメリカ、特にフロリダを中心に人気のあるメニューです。キューバサンドを初めて作ったのは5月14日の試作会。メニュー開発のプロから指導を受けながら、様々な食材やソースを組み合わせて試作を繰り返していきました。



「これだと油が濃い」
「肉の油分を減らすと、焼き上げた後、パサパサになって食べにくい」
「油の濃さ、バターかもしれない」
「バターなくして焼くのは難しい、味もおかしい。バターを変えよう」
他のチームの学院生にも試食をしてもらい、意見を集めながら具材の選定を行っていきました。

今後は、ドリンクメニュー（なおえつクラフトレモネード）の開発と並行しながら、外部のイベント出店を通してテストマーケティングを行い、開店に向けて、品質を高めていきます。



6月21日(日) 越佐まぐろ祭に出店しました

6月17日(水)に、港町会館で地元の方向けの試食会を実施しました

お知らせ

Information

7/26(日) managara HighSchool スクーリング

7/28(火) 直江津祇園祭民謡流し参加 (上越校在籍者のみ)

■発行: ライトシップ高等学院

所在地: 〒942-0011

新潟県上越市港町1丁目9-1 直江津港佐渡汽船ターミナル2階

TEL.050-8889-2254

■広報紙 撮影・取材・文 土田 あさひ (ライトシップ高等学院 2年生)

所在地: 〒942-0074 新潟県上越市石橋2丁目6-27

TEL.025-546-7275

広報紙製作: 株式会社グローバルアセットモーションズ